

第2学年3組 生活科授業案

豊橋市立多米小学校 中澤 彰仁

1. 日時 平成25年7月10日(水) 第5時限

2. 単元名 大好き! 多米の町 ～自然がいっぱい すてきな川～

3. 単元目標

- ・多米校区の自然やそこに暮らす人々について関心をもち、さまざまなことをみつけようと探検活動に意欲的に取り組むことができる。
(関心・意欲・態度)
- ・探検活動を通して分かったことを交流することで、友だちの考えを取り入れてさらに自分の活動を広げたり深めたりすることができる。
(思考・表現)
- ・三つの川での遊びを通して、多米校区の自然のよさや楽しさに気づく。
(対象への気づき)
- ・多米校区の自然とのふれあいをとおして、すすんでかかわることの楽しさを知り、多米の町についてさまざまなことがわかった自分に気づく。
(自分自身への気づき)

4. 児童の実態と教師の願い

本学級の子どもたちは、自然の中で遊ぶことや生き物と触れあうことが大好きである。春の遠足で飯村公園へ行ったとき、夢中になって草花を摘んだり、虫を捕まえようと走り回ったりする姿が見られた。これらを受け、自然とふれあう活動が大好きな子どもたちが多米校区について学ぶ素材として、多米校区の自然を取り上げたいと考えた。

多米校区は三方を山に囲まれ、田や畑があり、複数の川が流れる自然豊かな校区である。北に朝倉川、南に内山川、内山川の支流であるほたる川が流れている。朝倉川は、3本の中で一番大きく、多くの生き物が生息する川である。しかし、いくつかの遊ぶポイントがある朝倉川で活動することによって、子どもたちは生きものをさがしたりつかまえたりして魚や水中生物の生態を知ったり、川の深さや水の流れについて学んだりすることが期待できる。内山川は、ほたるの保全活動のため川の中に入ることはできないが、毎年夏になるとゲンジボタルが多く舞い、秋には川沿いで虫取りや草花遊びができる。ほたる川は、内山川の支流であり、人々がもっとほたるに親しめるようにと作られた「ほたるの宿」という散策路の中の人工的な川である。せせらぎのような細い川だがカエルなどの小動物が数多くいて、川縁を歩くと四季折々の草花が咲き、水車や、蛍の生態について記された東屋がある。このように、多様な自然に関わることでできる3つの川で活動を組めば、子どもたちはそれぞれの川のおもしろさやよさに気づいていくのではないかと考え、本単元を設定した。

単元のはじめに、「ぼくの家はどこかな?」とマップを使った学習を組んだ。学校を中心とした多米マップを作り、そこに子どもの自宅や主要施設、河川を落とし込んでいく。それによって、子どもはおおよその方角や位置関係をつかみ、「多米の町をもっと知りたい」「行ってみたい」という意欲が高まっていった。今後も、登下校でみつけたものやかかわった人などをマップに付け加えていき、一年間を通して多米マップを完成させたいと考えている。

はじめの探検で朝倉川沿いを歩いたところ、子どもたちはたくさんの魚やカメ、ホタル、ヘビ、ダンゴムシやテントウムシなどを見つけ「次は朝倉川の中に入って生きものをつかまえたい。」と思いをつくらせていた。そこで、朝倉川探検と称して活動を始めることになった。校区を横断して流れる朝倉川の中で、多様な活動が期待できる4つのポイントに絞って川遊びを展開することにした。ファイト前は、川幅が広く生き物が一番捕まえやすい。タカマツ前は、ザリガニが多くとれる。団地の前は、飛び石があり、カメがよく見られる。多米公園前は、川幅が狭く流れが速いが、川エビやヤゴが多くとれる。活動の振り返りとして発見カードを書かせる際には、「どこでみつけたの」「どうやってつかまえたの」と対話をすることで視点を与

えていく。

本時では、朝倉川を探検し、活動の中で育まれた気づきを「朝倉川マップ」に表していく。動作化でも子どもの気づきを表しやすくするために、実際の川をイメージできる大きさにする。複数ある活動ポイントでの気づきを共有し、比較したり関連づけてたりして子どもの思考が深まり、「もう一度朝倉川をたんけんしたい」「友達に教えてもらったことを試してみたい」という思いを抱き、次の探検への意欲となっていくことを期待している。

朝倉川での活動を満喫したころには、季節は秋へと移っていくだろう。多米マップを見た子どもたちは、まだ行っていない2つの川にも行ってみたいと言い出すであろう。そこでは、朝倉川ではできない違った魅力のある活動が期待できる。3つの川での遊びを十分楽しんだ子どもたちは、「川っておもしろいね」「川で遊べて楽しかったね」と3つの川のそれぞれの良さを実感するであろう。また、「川以外にもおもしろそうなものがあるよ」と地域の別の良さにも目を向けて行くであろう。そこで、次回は人に着目したまち探検パート2へと発展させていく。このように、自然や人を絡めてダイナミックなまち探検を活動して行くことで、「多米ってすてきだな」「多米の町、大好き」と思う子どもたちに育っていくことを願う。

多米の町には何があるのかな

①②

※主要な施設や

川などのおおよその方角や位置関係をとらえやすくするために、校区のマップを作り、そこに落とし込んでいく。

自然

- ・田んぼがあるよ。
- ・いろんな公園があるよ。
- ・山があるよ。
- ・いもう湿原があるよ。
- ・利兵池があるよ。

建物

- ・夢の子幼稚園や東部保育園があるよ。
- ・東陽中学校があるよ。
- ・郵便局、病院、交番があるよ。

自分の家

- ・わたしの家は、内山川のすぐ近くだよ。
- ・ぼくの家は、朝倉川の近くだよ。

ほたるが見られるところ

- ・内山川で夜、ほたるが光っていたよ。きれいだった。
- ・ほたるを観る会に行ったことがあるよ。何てところだったよ。
- ・夢の子幼稚園の近くに「ほたるの宿」という公園があるよ。

みんなでいってみようよ

朝倉川へ行ってみよう！

③④⑤⑥

- ・大きなコイがいたよ。
- ・かめが、日なたぼっこをしていたよ。

- ・ザリガニとか、生き物をとって飼いたいよ。

- ・川におりられそうなおとこがあったよ。中に入りたいな。

朝倉川に入りたい！

⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭

※子どもの追究を支えるために、十分な活動時間を保証する。

ファイトの前

- ・ヨシノボリがたくさんとれたよ。
- ・いろいろな貝を見つけたよ。

タカマツの前

- ・サワガニがいたよ。
- ・小さなエビがたくさんとれたよ。

団地の前

- ・カメが石の上で日なたぼっこをしていたよ。
- ・大きな石の下に、ザリガニがかくれていたよ。

多米公園の前

- ・ヤゴがたくさんいたよ。トンボの赤ちゃんも。
- ・川はせまくて、流れがはやいね。

★見つけよう、探そうという気持ちで探検活動ができたか。

発見したよ！知らせたいな！

⑮⑯ (本時 16/25)

※見つけたり、気づいたりしたことを共有することができるようにするために、探検活動後に情報交換を行う。

- ・川のおすすめポイントはここだよ。
- ・つかまえた生き物を飼ってみたよ。

- ・メダカの動きが速くて、つかまえられなかったよ。
- ・メダカは川の流れと反対に泳いでいるよ。

- ・浅いところは流れがはやくて、深いところは流れがおそかったよ。
- ・ファイトの前の深いところに大きな魚がいたよ。

- ・たくさん貝をとっている子がいてうらやましかった。
- ・アクアスコープを使ったら水の中がよく見えたよ。

★調べたことを絵や文で表現したり、友達に話したりできたか。(ワークシート、発言)

友達に教えてもらったことをやってみよう！

⑰⑱

- ・教えてもらった方法で、今度こそ魚をつかまえたかな。

- ・草の生えぎわにあみを入れたら、大きな魚がつかまえられたよ。

- ・水そうの底もアクアスコープみたいになるよ。水の中の様子がよく分かったよ。

- ・多米校区には他にも川があるよ。今度は他の川にも行ってみたいよ。

ほたる川にも行ってみたいな！

⑲⑳

- ・カエルがいるよ。
- ・水車があるよ。

- ・ザリガニがたくさんいてつかまえやすいよ。

内山川にも行ってみようよ！

2122

- ・内山川はジュズダマがあったよ。
- ・ひつつき虫もあったよ。

発見したよ！知らせたいな！パート2

2324

- ・かもがいたよ。朝倉川にはいなかったけど。

- ・ほたるのことが書いてある看板があったよ。

- ・小さな川だけど、魚がたくさんいるよ。

- ・知っている人がいるみたいだよ。聞いてみようよ。

3つのすてきな川があつてよかったね！

2526

- ・またあそびにいきたいな。

- ・今度は神社やお寺にも行ってみたいな。

- ・多米にはいいところがあるよ。
- ・もっと多米のいいところを見つけに行こう。

今度は神社やお寺に行ってみよう

6. 本時の学習

(1) 目標

・朝倉川探検を通じて、自分たちが見つけたことや気づいたことを交流することで、生き物のすむ場所やつかまえるコツを考えることができる。(思考・表現)

(2) 展開

[時間]

学 習 活 動

※教師支援

★評価 (評価方法)

ファイト前のおすすめを発表しよう！

※実際の川での体験を動作化を交えて表現しやすいように、不織布を利用した朝倉川マップを使用する。

団地の前 (前時)

- ・ここにもたくさんの魚がいたよ。
- ・カメが、石の上で日なたぼっこをしていたよ。
- ・ほたるが木にとまっていたよ。体の色は黒だったよ。昼間にほたるをみたのははじめてだ。
- ・だんご虫をたくさんみつけたよ。

ファイトの前 (本時)

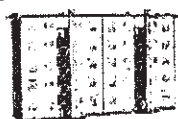
- ・メダカをつかまえたよ。小さくてかわいいよ。
- ・タナゴをつかまえたよ。平べったい魚だよ。
- ・浅いところで、ヨシノボリがいっぱいとれるよ。
- ・貝がたくさん見つかったよ。
- ・草の近くで、大きな魚を見つけたよ。
- ・川エビがファイトの前にいるとは思わなかったよ。



多米公園の前



団地の前



タカマツの前



タカマツの前 (前時)

- ・草のところに魚がいるよ。
- ・橋の下でサワガニをつかまえたよ。
- ・小さくてかわいい川エビがいるよ。
- ・小さな魚はいっぱいいたけど、大きな魚はいなかったね。
- ・カダヤシがいるよ。メダカよりも少し大きかったよ。

多米公園の前 (前時)

- ・魚がたくさんいてびよんびよんとびはねていたよ。
- ・草のへんで川エビがとれるよ。
- ・草の中にあみをいれたら、いっぱい入ってたよ。
- ・ヤゴがたくさんいるよ。トンボの赤ちゃんなんだよ。
- ・川はせまくて、流れがはやいよ。

※4つの場所のうち、次の活動への見通しがもてそうな場所1つに焦点を当てる。ふり返ることができるように、前時までの話し合いの内容を掲示する。

[15分]

※活動時の様子がより具体的になるように、生き物をつかまえる道具や川の様子が見える写真など、視覚でとらえられる資料を準備し子どもの発言に合わせて提示する。

どうしたら生き物をうまくつかまえることができるかな？

- ・タカマツ前はだんだんになっているところに魚がいるよ。かどのかべに追いつめれば簡単にとれるよ。

- ・友だちと協力したよ。一人だとすぐ逃げられちゃうけど、2人ではさみうちしたらつかまえられるよ。

- ・深いところに大きな魚がいたよ。こうやってあみを草の根元に突っ込んでガサガサやったらとれた。

- ・アクアスコープを使ったら水の中がよく見えたよ。貝のいる場所がすぐわかるよ。

★自分の体験をもとに、生き物をつかまえやすい場所や方法に気づくことができたか。(発言)

生き物をとり方にはコツがあるんだね

[35分]

つぎに行きたいところを決めよう！

- ・メダカをつかまえたのが分かったよ。タカマツ前に行ってたくさんとりたいたいよ。

- ・もう一度ファイトの前の深いところに行って、大きな魚がとりたいたい。

- ・わたしは友達の話聞いたから、団地の前に行って、カメをつかまえたくなかったよ。

- ・ぼくは、川エビをつかまえたから、大きなあみを持って多米公園前にいきたいな。

[40分]

ふりかえりをしよう

※次時への活動に見通しがもてるように、ふり回りカードに生き物をつかまえるために何を準備するかを書くよう助言する。

- ・今まで魚のとりかたがよくわからなかったけど、友だちがやって見せてくれたからよくわかったよ。

- ・今までずっと一人でとっていたけど、今度は友だちと協力して生き物をつかまえた。

- ・友だちに教えてもらった方法で、今こそ絶対に魚をつかまえた。

★友達のアドバイスを聞くことで、自分が次にやりたいことの見通しを持つことができたか。(発言、ワークシート)

今度はうまくつかまえるぞ！